

回って楽しむ住まい

回遊性のある住宅を通じて家族間の気配や活動を活発にし、楽しく子育てができる住まいの提案。

Data
4人家族：夫婦、息子2人
延床面積：約150㎡
建築面積：約250㎡
構造：木造建築在来工法

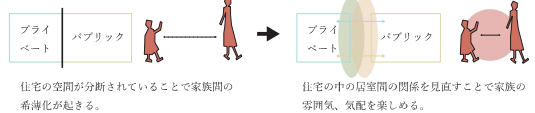
1 敷地

敷地場所は、京都市西京区の敷地。この場所の住宅街の計画とする。南北は住宅に囲まれており、西側は緑地と隣接している。近くには、小学校や図書館、スーパーなどがあり、子育てがしやすい場所となっている。



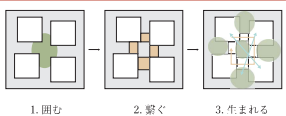
2 家事と子育ての両立

友働きの家族が増えていくことで親自身の時間や子供と密接に関わる時間が少ない状況にある。そのために、家族間の趣味や子供の遊びを拡張する居場所や、気配や視線を感じる庭や空間が必要になる。これらを繋いで家族の気配を感じながら楽しく過ごす住宅を提案する。



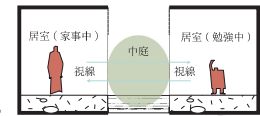
3 ダイアグラム

それぞれの用途を持った4つのボリュームを中庭に対して囲むように配置をする。そしてボリュームの間を渡殿で繋ぐことで家族の気配や回遊性のある住宅を生み出す。

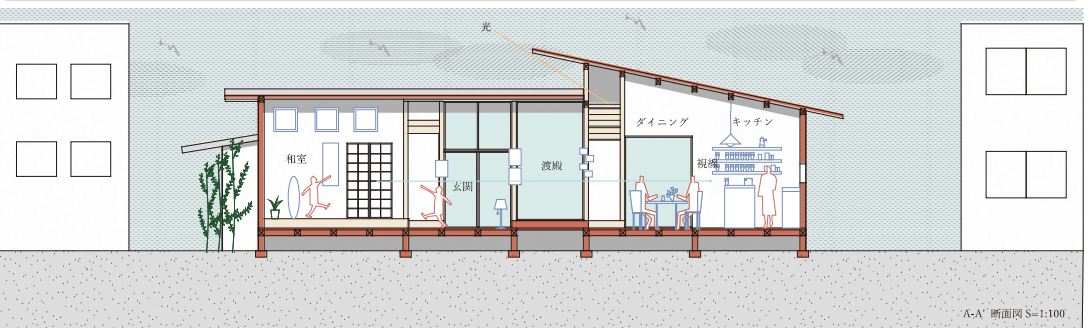


4 家族の気配

家族の間で互いに気配を感じるために、視線の抜けを利用する。居住間の壁をガラス張りにすることで家事や趣味を行っている中でも、お互いの居場所が中庭を介して分かる。そのためより子供と密接に関わりやすくなる。



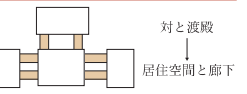
8 断面図



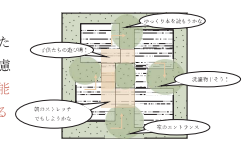
A-A' 断面図 S=1:100

5 渡殿で回る

京都の歴史的な要素である寝殿造りを用いられた渡殿をイメージしてそれぞれの居住間を繋いだ。建物を渡ることによって空間の移ろいを楽しむことができる。

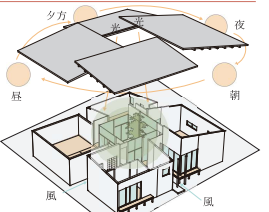


渡殿とヴォリューム間に隙間の庭ができることで様々な用途で用いることができる。新しく生まれた隙間は建物の圧迫感を無くし、近隣の調和に考慮する。渡殿のようにそれぞれの建物を繋ぐ廊下の機能だけでなく、そのものが多目的の空間として利用できる空間となっている。



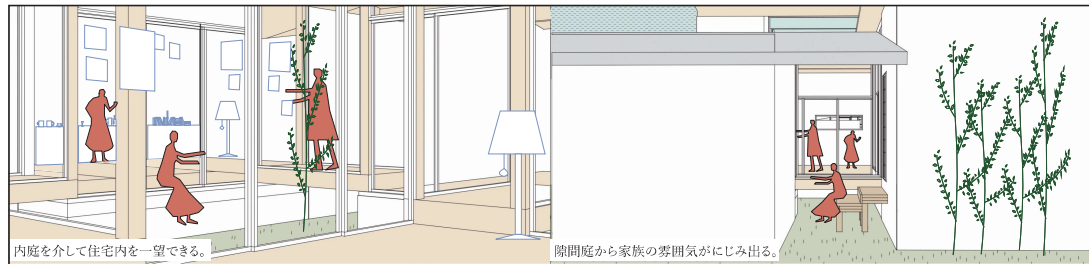
6 内庭を囲む暮らし

居住空間を内庭で囲むことで家族のアクティビティの場所を中心に設けることができる。このアクティビティが隙間から漏れ出し、外まで家族の賑わいを生み出すことができる。内庭を通してリビング、キッチンなどが一望でき、のびやかな空間となっている。日本の住まいにあった拡がり、奥行き、移ろいや風を感じられる間と外の関係をつなぎ合わせる住まいとなっている。

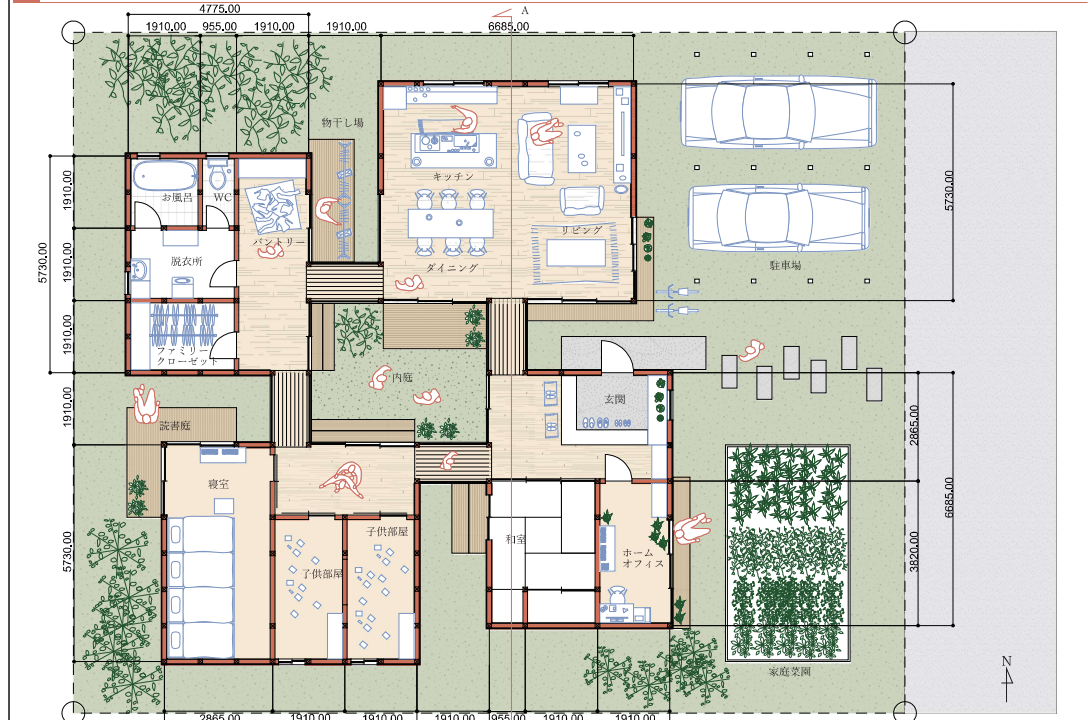


7 素材

京都府内産の木材で囲まれた家。スギ・外壁 / 内壁 / 柱、ヒノキ・床 / 屋根。以上のそれぞれに使用されている。それぞれ内壁は真壁で柱を空間内に使われている。天井は構造表し仕上げにすることで天井から木材の温かみを実感することができる。



9 平面図



平面図 S=1:100

10 立面図



東側立面図 S=1:100

北側立面図 S=1:100